

慶応元年九月三日より慶応元年九月五日まで

P8311311 right

行、漫吟、久容作曜日詩作曜姿容匹似老浮凶除去思郷与求句三寸胸頭可物無

三日丑 陰午下晴

達より従僕へ毛□の意残す、筒袖製襦袢を謝意に贈る、達作遊歩に出、ウエルニーより製紙所

一見の義申聞る、昨今風邪氣に付断る、客中(*1)、愁臥対庭蕪黄昏(たそがれ)容心孤風寒

奴慢嬾霜熙、林檎枯詩自無心得身縁多累曜久絶杯中物酒星

天一隅、兔走烏龍節物徂人間定有抱嗟吁帰心不省身□老喜見年 光属

隙駒

四日寅 晴陰不定

ヘラルト来り本夕自分楽達作三源を□食に招く、余は風邪、楽は□勢、源は館に不得不留を

P8311311 left

(レノー)を断る、一昨ロアンデリースよりの返翰を一見為及尤写し差遣積り也、レノー給分

一月貳百ドル

の内(分にて)千百拾フランク、並此の程(明後日)ツーロンへ為御用遣し候、旅費百拾フラング

御渡有し度旨ウエルニー申立候、ヘラルト方へ

一昨ロアンテリスよりの返翰写を達す、並貨幣鑄造器械の義、返翰をも遣す、ウエルニー給分

の内四百フランク拝借願出る、(初度より五度に至る、合て千百フランク也)ヘラルト招きに応

じて達作三三人対食(*2)に行き、且劇場へ誘

はれし旨、不□鐘声苦夜超て蟲、瘦叢枯奈□寥更己闌時孤

枕冷秋将盡処、容心焦茶非作崇賤難就詩欲遣愁燈屢挑黯

淡西窓残月没庚星□照無聊

五日卯 晴雲

陸軍習練の義に付、自分並外老人、御雇の義願書輸出すものあり、製紙所主人ラシエなる

もの来り

*1:客中(かくちゆう) 旅のさなか、旅先

*2:対食(たいしょく) 差し向かいの食事

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れあり、虫食いにより文字が無い等です。